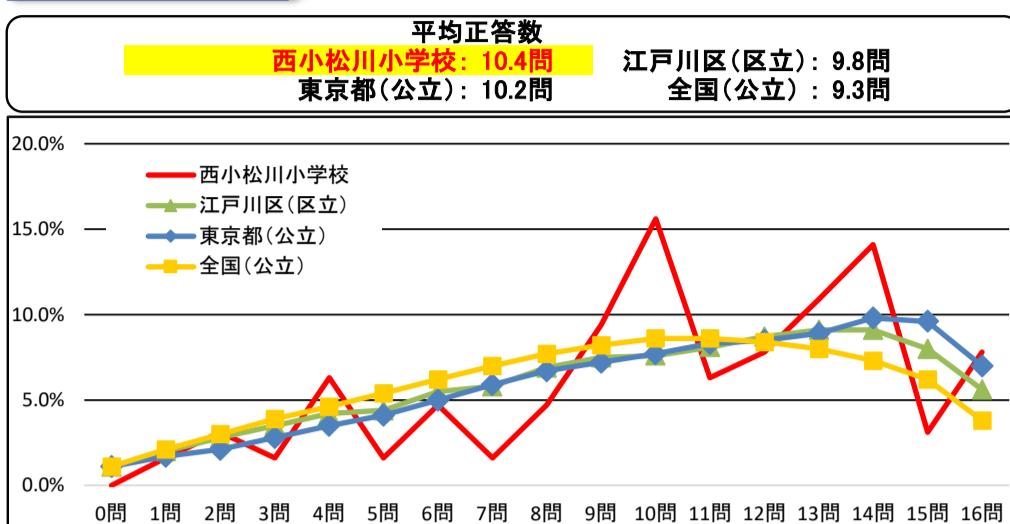


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】西小松川小学校

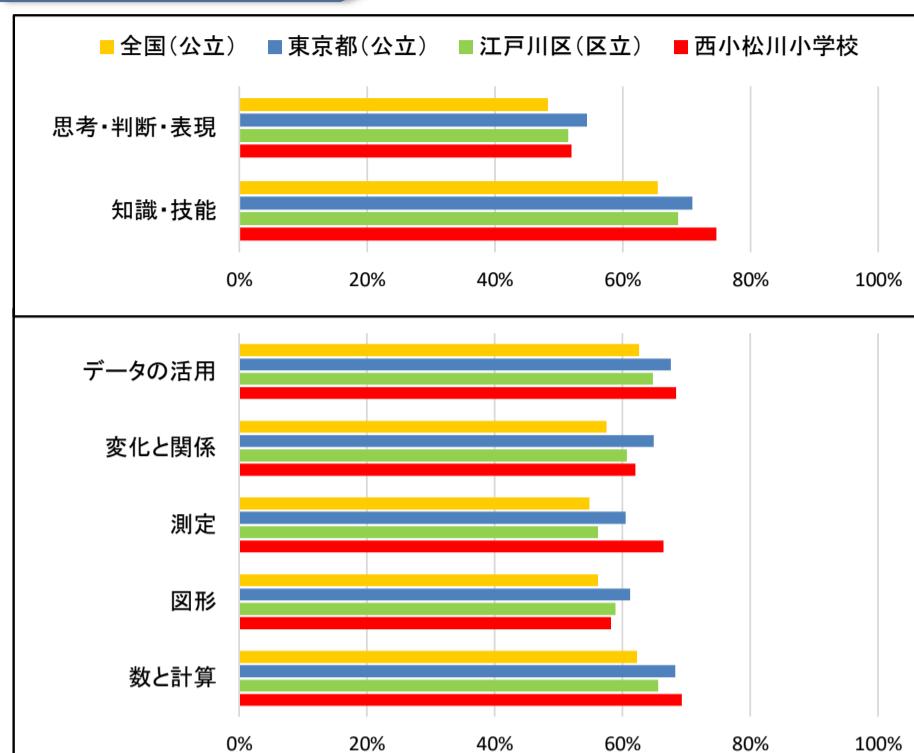
## 正答数分布



【平均正答率の差】

西小松川小学校	65%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	1.0

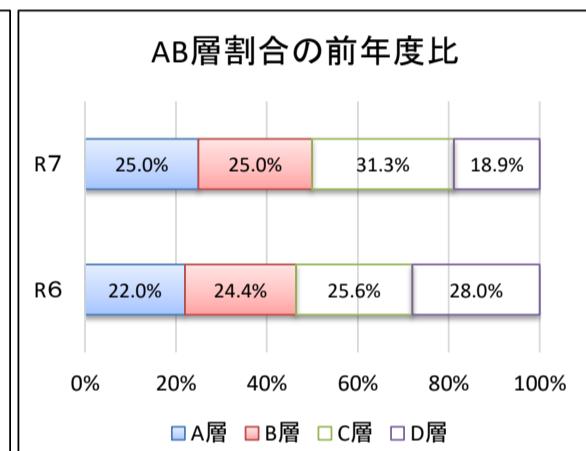
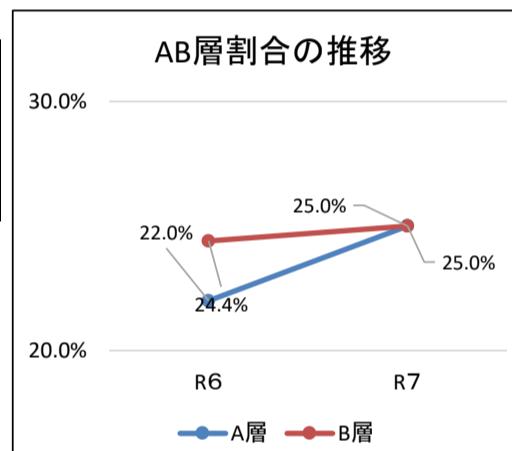
## 「領域別」の結果



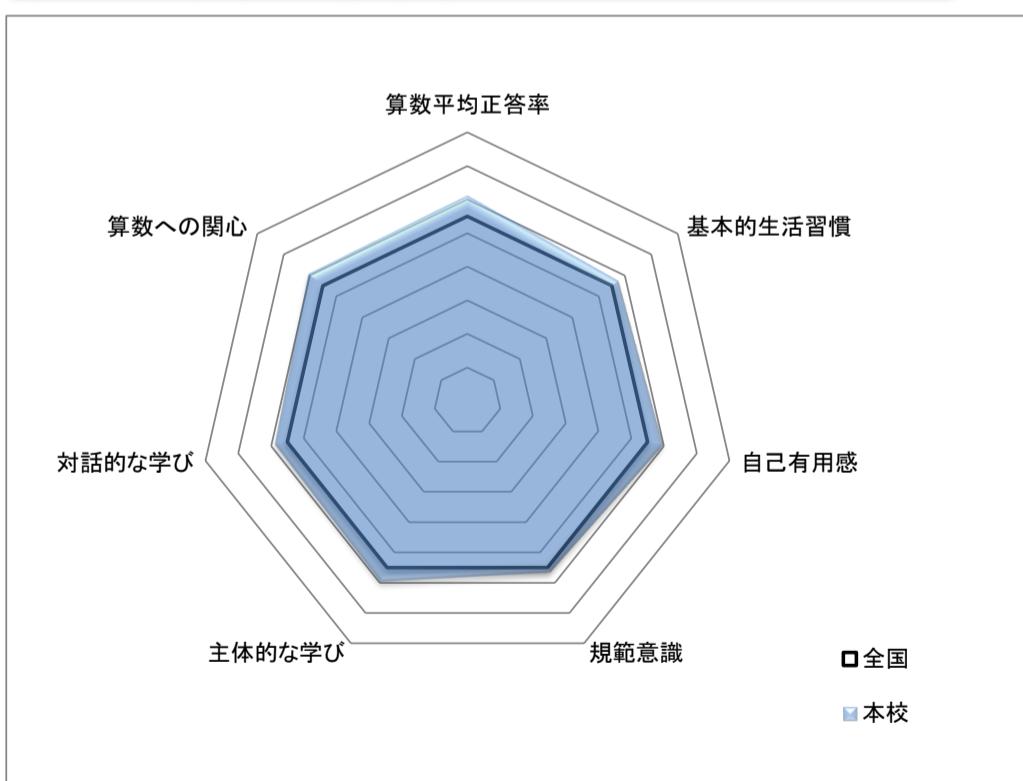
## 四分位における割合 (都全体の四分位による)

算数	A層	B層	C層	D層
	14~16問	11~13問	7~10問	0~6問
西小松川小学校	25.0%	25.0%	31.3%	18.9%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答回計値を基準とした場合の、本校の様子。



### 《チャートの特徴》

本校児童は「自己有用感」では高い割合を示している。「基本的生活習慣」についても高い割合を示していることから、整った生活のもと、周りの大人からの適切な支援や声かけがある中で成長している様子がうかがえる。  
算数の学習に対する関心も高く、「将来、社会に出たときに役立つ教科」という考えをもって、授業に積極的に参加していることがうかがえる。

### 《家庭・地域への働きかけ》

日頃から、家庭学習の充実のために、保護者の協力をいただきながら、学習の継続性、連続性を確保していく。  
毎学期はじめの「生活リズムカード」を活用して、長期休暇明けでも学校での生活がスムーズに始められるようにする。

### 《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について  
昨年度に比べて、AB層の割合がやや上がった。授業での問題把握の場面で、既習事項やキーワードを丁寧に扱い、見通しをもって解決できる工夫をしてきた成果と考える。

引き続きタブレット等を活用した繰り返しの学習で、基礎的な学力を確実に定着させ、「思考・判断・表現」の力の向上に結び付けていく。

### 《学校の取組》

#### ・教員の指導力向上

課題に対して主体的に取り組むことができるよう、学習のゴールを明確にするとともに、授業の導入や教材の内容、課題提示等を工夫する。そのためにICT等を有効活用し、情報整理や友達との意見交換を授業計画の中に取り入れるようにする。  
また、学習に対する様々な「バリア」の解消のため、学びのユニバーサルデザイン(UDL)の視点をもって、可能な限り一人一人の児童に合わせた学習方法を提案できるようにする。

#### ・基礎学力の保障

タブレットで「ドリルパーク」を活用し、教師が一人一人の学習の状況を把握し、必要に応じて個別に指導していく。  
「えどスク」の講師と連携したり、4、5年生で実施されている江戸川区学力定着度調査の結果を活用したりして、個別の課題を把握していく。

#### ・学習習慣の確立

学習習慣の確立のために家庭と連携して、「学年×10分以上」の学習を推奨する。  
規則正しい生活習慣を送っている児童は平均正答率が高い傾向が見られることから、生活習慣を整えて家庭学習の時間を確実に確保できるよう、保護者会等を通して呼びかけていく。

#### ・AB層の育成

「知識・技能」の問題では、全国平均に比べ高い正答率となっているが、「思考・判断・表現」においては課題が見られる。特に「変化と関係」「図形」についての正答率が下がっている傾向にあるため、指導方法を検討し重点をおいて指導する。

また、2つの単元については、それぞれの学年で年1回程度の学習となるため、学年間の学習のつながりを意識して指導計画を立てる。